

2025 年度 高等学院同窓会学術研究奨励金 研究成果報告書概要（WEB 公開用）

高等学院長
高等学院同窓会理事長 殿

研究代表者氏名 [徳田 良信]

学年・組・番号 [3 年 D 組 20 番]

研究課題： 道祖神とサイの神の調査および比較研究
——サイの神から道祖神への変化とその現状の考察——
(英文) Investigation and comparative research of Dososhin and Sainokami
——Consideration of the transformation from the Sainokami to Dososhin and its current status——

研究概要：

(研究課題を選んだ動機、達成するための計画・目的・方法等について 200～400 字で記入してください)

道祖神（サイの神とも呼ばれる。）とは、日本各地に見られる民間信仰の一つであり、その信仰の形態や祭祀、説話などは極めて多様な姿である。こうした道祖神信仰のうち、ある地域に残る道祖神信仰について興味を持ち、昨年度に研究を行ったものの、資料不足などにより実態解明に至らなかった。このことから、全国的な道祖神信仰について調査および研究を行うことで道祖神信仰の実態を帰納的に解明し、限定的な地域の道祖神信仰の研究ではわからないような実態について推測することが本研究の目的である。

本研究では、道祖神信仰の豊富な個性とその歴史性について注目し、複数地域の事例を分析することによって、実態の解明が難しい道祖神信仰の実態解明を目指したほか、なんらかの規則性があるといえるのか調査及び考察した。併せて、先行研究によって提唱されている主張が妥当なものであるのか自分なりに再考察した。

具体的な研究方法としては、先行研究を参考にしながら各地（島根県や長野県など）の道祖神像及び信仰形態を調査（実地調査や文献調査など）し、それらを比較することで道祖神信仰の持つ特性や共通点について考察した。

研究成果：

(研究の結果概要、結果に対するフィードバックや感想等について 200～400 字で記入してください)

本研究では、道祖神信仰を対象に、その形態・性格・祭祀・説話などの多様な要素を整理し、歴史的展開を踏まえて信仰の実態と成立過程を考察した。研究成果として作成した報告書では、道祖神像の形態、祭祀、説話、信仰の性格といった要素を整理・分類し、それらが相互に関係しながら成立してきた過程を検討した。さらに、『和名類聚抄』や記紀神話の分析を通じて、サイノカミや岐神、道神といった複数の神格が中世以降に統合され、「道祖神」という枠組みが形成されたことを指摘した。以上より、道祖神信仰は単一の神への信仰ではなく、地域社会の要請に応じて変容・継承されてきた複合的信仰であることを示した。

研究者：（以下の、代表者・分担者は学年・組・氏名を明記する）

研究代表者 徳田良信（3 年 D 組）

研究分担者 平井利空（3 年 D 組） 勝田英翔（3 年 D 組） 南波知成（3 年 D 組）

担当教諭 松澤徹 先生 (受給額： 25,000 円)

※研究課題、研究概要、研究成果、研究代表者名が WEB ページ上で公開されることに同意します
(次のページに続きます)

研究成果写真：

（研究過程がわかる写真や、研究結果がわかる写真などを数点貼り付けてください）



以上